

第 3 次神奈川県食育推進計画

令和元年度取組状況

令和元年度取組状況 目次

1	健康増進課	2
2	資源循環推進課	8
3	農政課	10
4	農業振興課	12
5	畜産課	14
6	水産課	16
7	農地課・環境農政局総務室	18
8	消費生活課	19
9	生活衛生課	20
10	保健体育課	25
11	高校教育課・特別支援教育課	27
12	生涯学習課	28
13	次世代育成課	29
14	子ども支援課	30
15	私学振興課	31
16	神奈川県立保健福祉大学	32

基本理念

楽しく食べて健康づくり

～ つくる・育む・親しむ・食のみらい ～

未病を改善するための重要な要素である「食」について、県民一人ひとりが医食農同源の健康観など食に関する理解を深め、健全な食生活を実践することにより、誰もが元気に笑顔で、長生きできる神奈川を目指します。

基本方針

(1) 健康な「体」をつくる

[取組の方向性]

栄養バランスに配慮した食事など正しい食習慣を身につけていくことで、健康な体をつくれます。

- ア 家庭での食育の推進
- イ 学校等での食育の推進
- ウ 地域での食育の推進
- エ 食育推進運動の展開
- オ 若い世代に向けた取組

(2) 豊かな「心」を育む

[取組の方向性]

子どもの頃から食事のマナーを身につけ、食に対する感謝の気持ちを培い、豊かな心を育みます。

- ア 学校等での食育の推進
- イ 食文化の継承の推進

(3) 食への理解を深め「神奈川の食」に親しむ

[取組の方向性]

農林水産物の地産地消や食を取り巻く環境への配慮、食品の安全性など、食への理解を深め、神奈川の食に親しみます。

- ア 農林水産物の地産地消の促進
- イ 食を取り巻く環境への理解促進
- ウ 食の安全への理解促進
- エ 食に関する調査・研究



健康な「体」をつくる〔地域での食育の推進〕

取組名：食生活改善の普及啓発

【担当課：健康増進課】

1 目的

地域において、食生活を中心とした生活習慣の改善を実践的に展開し、県民の健康寿命の延伸及び生活の質の向上を図ることを目的に、県民が取り組みやすい食情報を中心とした健康づくりの普及啓発を推進する。

2 予算額

480千円（委託先 神奈川県食生活改善推進団体連絡協議会）


3 取組実績

- (1) 生活習慣病予防に効果的とされている野菜料理や手軽に作れる料理、地場産物・和食など地域及び職域で活用できるメニューの開発、作成。（20品目）
（開発したメニューは県HPでも紹介）

四季の野菜レシピ★新キャベツとわかめの辛味噌和え

材料（4人分）

新キャベツ	1/2個（400g）
塩蔵わかめ	1.5g
味噌	大さじ1
A-砂糖	小さじ2
練りがらし	小さじ1
だし汁	大さじ3



【作り方】

- ① わかめは水につけ塩分を流し、食べやすい大きさに切り、熱湯でさっと茹で、水気をしっかり切る。
- ② 新キャベツは一枚ずつはずし、芯は斜め薄切りにする。葉の部分はひと口大に切り、熱湯でしんなりするまで茹で、水気をしっかり切る。
- ③ Aの調味液を混ぜ、①と②を加え、よく和える。

【1人分の栄養価】

エネルギーkcal	たんぱく質g	脂 質g	カルシウムmg	食塩相当量g
34	1.9	0.6	35	0.8

- (2) 県民の健康寿命の延伸及び生活の質の向上を図る地域リーダー育成のための研修会を実施。
- ・令和元年7月2日（火）ブロック別研修会全体会
講演「かながわ健康プラン21（第2次）及び神奈川県食育推進計画の推進のヒント」
 - ・令和元年7月12日（金）ブロック別研修会（Aブロック）
 - ・平成元年7月26日（金）ブロック別研修会（Bブロック）
 - ・令和元年7月29日（月）ブロック別研修会（Cブロック）
- } テーマ共通
- 講義「かながわ健康プラン21（第2次）について」
- ・令和2年1月24日（火）予定
講演「知っておきたい食物アレルギー～調理場面で役立つ食物アレルギー対策～」
- (3) 地域住民を対象とした、食生活改善普及啓発講習会の開催（16回）
地域において住民を対象に、かながわ健康プラン21（第2次）の普及啓発等講習会を実施

健康な「体」をつくる〔地域での食育の推進〕

取組名：オーラルフレイル健口推進員（8020運動推進員）の養成と活動支援

【担当課：健康増進課】

1 目的

神奈川県歯及び口腔の健康づくり推進条例第10条第4号及び第9号に基づき、8020運動及びオーラルフレイル対策をはじめとする歯及び口腔の健康づくりを推進するため、口腔機能向上等の普及啓発活動等、歯及び口腔の健康づくりを自主的に実施するオーラルフレイル健口推進員（8020運動推進員）の養成及び育成を行う。

※ 平成31年4月1日より「8020運動推進員」は「オーラルフレイル健口推進員（8020運動推進員）」と改名しました。

2 予算額

1,714千円

3 取組予定

- (1) 養成研修の実施（2回）
- (2) 座学研修の実施（2回）
- (3) 育成研修の実施（35回）



写真：地域で活動するオーラルフレイル健口推進員

手作りの媒体を使って「健口体操」を地域住民に伝えます。

4 取組状況

(1) 養成研修の実施

- ア 令和元年9月5日（木）13：30～16：00 厚木保健福祉事務所大和センター
養成者数：49名
- イ 令和元年9月13日（金）13：30～16：00 小田原合同庁舎
養成者数：44名

(2) 座学研修（アドバンス研修）の実施

- ア 令和元年11月27日（水）13：30～16：00 神奈川県歯科保健総合センター
参加者数：70名（内訳 オーラルフレイル健口推進員59名、聴講者11名）
- イ 令和元年12月4日（水）13：30～16：00 足柄上合同庁舎
参加者数：59名（内訳 オーラルフレイル健口推進員52名、聴講者7名）

(3) 育成研修の実施

県域8か所の保健福祉事務所及びセンターにて年間計35回開催予定。
参加者数：約400名（予定）

(4) 地域における活動

お口の体操（健口体操）を通じて、地域住民の歯と口の健康づくりをサポートする活動を行っている。

活動場所：保育園、小学校、児童館、地区サロン、高齢者施設、市町村事業 等
（参考：H30年度実績 健口体操普及者数 延べ53,553名）

健康な「体」をつくる〔食育推進運動の展開〕

取組名：かながわ食育月間の推進

【担当課：健康増進課】

1 目的

家族構成、ライフスタイルの多様化や単身世帯の増加により家庭における食育だけではなく、友人や仲間、地域コミュニティでの食事会などの「共食」の重要性が高まっていることから、毎月19日の食育の日と第一日曜日を「みんなでいただきますの日」に改め、毎年8月を「かながわ食育月間」と位置づけ食育の普及啓発を図る。

2 予算額

262 千円

3 取組予定

「かながわ食育月間」、「みんなでいただきますの日」等を周知するポスター等による食育普及

4 取組状況

- (1) 「かながわ食育月間、みんなでいただきますの日」の啓発ポスターを作成し、かながわ食育フェスタ、市町村及び「神奈川・食育をすすめる会」に加入する事業者の店舗等において掲示し、食育の普及を図った。

作成部数 400 部

掲示箇所 ユーコープ、Fuji スーパー、相鉄ローゼン各店舗、県内市町村を含む行政機関、食育団体等

- (2) 県の食育マスコット「かなふう」と、未病改善ヒーロー「ミビョーマン」のコラボバンダナを作成し、かながわ食育フェスタほか県内のイベント等で配布することで、食育への関心及び普及を図った。

作成枚数 1,000 枚



健康な「体」をつくる〔食育推進運動の展開〕

取組名：かながわ食育フェスタの開催

【担当課：健康増進課】

1 目的

かながわらしい食育を進めるため、県が国や市町村、関係団体及び事業者等と連携・協力し、それぞれの役割分担のもとで、食育に係る講演会等を実施し、県民の食育への理解や意識の向上を図る。

2 予算額

2,955 千円

3 取組予定

第12回かながわ食育フェスタの開催

4 取組状況

- (1) 日時 令和元年7月30日（火）10時～16時
(2) 場所 新都市ホール（横浜そごう9階）他
(3) 主催等 主催：神奈川県
協賛：神奈川・食育をすすめる会
後援：関東農政局、横浜市

(4) 来場者数 4,472名

(5) 実施事業の概要

ア 食育講演会

「1杯の味噌汁からはじめる親子の食育～地産地消で未病改善～」

講師：みつはし あやこ氏（料理家・ME-BYO STYLE アンバサダー）

イ 食育・未病改善展示ゾーン

企業、団体、行政、大学等による食育を体験するためのプログラムの実施や食育に関わる味覚体験及び食育啓発パネルの展示

ウ 食体験ゾーン

食品メーカー、行政、団体等による親子の食育向上のための体験型プログラムの実施（8プログラム）

エ かながわの農産物即売ゾーン

農協、農業高校、女性農業者のマルシェ等による野菜、畜産物、加工品の展示即売会

オ イベントゾーン

未病改善ヒーロー「ミビョーマン」などキャラクターのよる食育の啓発、お米マンプロジェクト実行委員会によるオリジナル食育ソングの公演

(6) 出展者ブース 58 団体・企業



健康な「体」をつくる〔若い世代に向けた取組〕

取組名：若い世代に向けた食育の普及啓発

【担当課：健康増進課】

1 目的

自身の健康管理ができるよう食生活に目を向けてもらうため、食生活が乱れがちな若い世代に向けて、食の自立化が図られるよう食育の普及を図る。

2 予算額

19 千円（料理教室）、1,011 千円（女性の健康・未病フェア）

3 取組予定

- (1) ホームページやSNSによる情報発信
- (2) 若い世代向け料理教室の開催
- (3) かながわ女性の健康・未病フェア in みなとみらいの開催

4 取組実績

- (1) ホームページやSNS等の展開

健康・食育イベント情報等を発信するためHPや神奈川県 of 食育マスコット「かなふう」のfacebook等を運営し発信に努めた。

- (2) 若い世代の方の食の未病改善を推進するため、和食をベースにした、手軽に楽しみながら美味しく作れるメニューでの料理教室を開催。

ア 藤沢会場（東京ガスキッチンランド湘南）

日 時：令和元年9月7日（土）10時30分から12時30分まで

参加者：16名

メニュー：「スピードおうちで和ごはん」

鮭とれんこんのふんわり揚げ、きのこの豆乳味噌汁 他

イ 横浜会場（東京ガス横浜ショールーム）

日 時：令和元年9月14日（土）10時30分から13時30分まで

参加者：24名

メニュー：「秋を感じるスタミナメニュー」

豚の唐揚げ 香味とろろがけ、うなぎと玉子の変わり巻き 他



健康な「体」をつくる〔若い世代に向けた取組〕

取組名：高校生に向けた健康・未病学習を通じた食育の普及啓発

【担当課：健康増進課】

1 目的

将来に向けた食生活と健康に対する現状や問題点などの理解を深め、自身の健康管理につなげられるよう高校生を対象に未病学習を通じた食育の普及を図る。

2 予算額

4,342 千円

3 取組予定

- (1) 健康・未病学習教材の作成・配布

4 取組実績

- (1) 高校生が健康・未病について知識を習得するだけでなく、知識の使い方を実践的に学び、考え議論することを通じ、主体的に行動でき、健康リテラシーを習得できるような教材として、平成 29 年度に「健康・未病学習教材（試作版）」を作成。
- (2) 上記教材を全県立高等学校、中等教育学校教員に配布し、教材を活用した試行授業を県立高等学校 12 校で実施。
- (3) 試行授業や教員の意見などを通じ、試作版から内容を充実させた教材を平成 31 年 3 月に完成、全県立高校の 1 年生に配布。私立・市立高校については希望校へ配布。
- (4) 令和 2 年 3 月に全県立高校の翌年度新入学生あて教材を配布予定。

教材の構成 ※は食育関連

- I 私たちが暮らす未来に向けて
- II 健康を支える仕組みを学ぼう
- III 信憑性のある健康情報を得るために
- IV 生活習慣病を学ぼう
- V 食生活と健康 ※1
- VI 運動と健康、睡眠
- VII 女性の健康を皆で考えよう ※2
- VIII がんを学ぼう
- IX 認知症の正しい理解
- X 人生 100 歳時代の自立と共生

※1 バランスの良い食事チェックのワークや毎日朝食を食べる工夫を考えるワーク

※2 やせ願望について考えるワークや自分の 1 日のカルシウム摂取量を計算するワーク



取組名：食品ロス削減に関する普及啓発

【担当課：資源循環推進課】

1 目的

県民の食品廃棄物の発生抑制に対する意識を高め、食品廃棄物の発生抑制の推進を図る。

2 予算額

3,720 千円

3 取組予定

- (1) 県ホームページにおける食品ロス削減の取組紹介
- (2) 九都県市による食品ロス削減をテーマとした動画配信
- (3) 3010 運動の推進
- (4) 各種広報媒体、イベント等での県民への普及啓発

4 実施状況

- (1) 県ホームページにおける食品ロス削減の取組紹介
フードバンクや食品ロス削減を目的としたイベント等について紹介した。
- (2) 九都県市による食品ロス削減をテーマとした動画配信
九都県市首脳会議廃棄物問題検討委員会ホームページに、食品ロス削減をテーマに作成したクレイアニメの動画を掲載した。
- (3) 3010 運動の推進
ホームページにおいて記載し、環境省及び市の取組を紹介した。
- (4) 各種広報媒体、イベント等での県民への普及啓発
 - ア 食品ロス削減をテーマに、5月、9月、11月に開かれた講座で講演した。
 - イ 10月の食品ロス削減推進月間期間に、市町村と連携した県内一斉広報を行った。アニメキャラクターを起用したポスターを作成し、駅や公共機関、飲食店への掲出及び広報紙を活用して、食べきりを呼びかけた。
 - ウ かながわ消費者週間（10月18日～30日）に、かながわ県民サポートセンターで行われたイベントに、上記のポスターとキャラクターのパネルを掲出し、普及啓発を行った。
 - エ 10月に新都市プラザで開催された消費者関連イベントに参加。消費者側からの食品ロス削減の推進を取り上げた。

食への理解を深め「神奈川の食」に親しむ〔食を取り巻く環境への理解促進〕

取組名：食品リサイクルに関する普及啓発

【担当課：資源循環推進課】

1 目的

事業者及び県民の食品リサイクルに対する意識を高め、食品廃棄物のリサイクル率向上を図る

2 予算額

500 千円

3 取組予定

- (1) 食品関連事業者等を対象にしたセミナーの開催
- (2) イベント等での県民への普及啓発

4 実施状況

- (1) 食品関連事業者等を対象にしたセミナー
令和2年1月27日（月）に「食品ロス削減・食品リサイクル取組推進セミナー」を開催し、県内の食品リサイクル事業及び行政の取組事例を紹介する。
- (2) イベント等での県民への普及啓発
食品残さ等を原材料としたリサイクル製品及び認定制度を紹介するパンフレットをイベントで配布したり、サンプルを掲示したりすることにより県民への普及啓発を行った。

食への理解を深め「神奈川の食」に親しむ〔農林水産物の地産地消の促進〕

取組名：かながわブランド等の展開

【担当課：農政課】

1 目的

県内農林水産物の地産地消の促進を図るため、かながわブランド等の普及を図る。

2 予算額

3,476 千円

3 取組内容

- (1) かながわブランドサポート店等と連携したフェアの開催
- (2) 地産地消ポータルサイト「かなさんの畑」の情報発信、かなチャン TV での動画配信
- (3) かながわブランドコンダクターと連携したイベントの開催

4 実施状況（令和元年 12 月 20 日現在）

- (1) かながわブランドサポート店等と連携したフェアを 10 回実施した。
- (2) かなさんの畑フェイスブックを毎月 8 回程度更新し、メールマガジンを毎月 1 回程度発信したほか、昨年 12 月より新たに開設したインスタグラムについては、毎月 19 回程度更新し、情報発信を強化した。
かなチャン TV で、かながわブランドをテーマとした動画を 2 件作成し、さらに 1 件作成予定。
- (3) 「かながわ農林水産業の応援団」として活動するため、かながわブランド振興協議会がかながわブランドコンダクターとして任命している県内在住の野菜ソムリエ等と、スポーツフェスティバル等で「甘酒」や「甘酒風スイーツ」を一般県民等に配布した。また、藤沢市内の中学校において、食育講座を実施するとともに、花菜ガーデンで一般県民等を対象に、かながわブランド品を用いた料理教室を開催した。

食への理解を深め「神奈川の食」に親しむ〔農林水産物の地産地消の促進〕

取組名：花と緑のふれあいセンターの運営

【担当課：農政課】

1 目的

農業やその生産物にふれ、親しみそして学ぶ場を提供することで、農業に対する理解促進を図る。

2 予算額

70,078 千円（維持管理費）

3 取組予定

- (1) 農業に親しんでもらうための講座の開催（7回程度）
- (2) 農業と食にふれあう体験を提供する「気づき体験事業」の実施（9回程度）

4 実施状況

令和元年12月1日時点

- (1) 農業に親しんでもらうための講座の開催(食育関係のみ)

	実施回数	参加人数	内容等
農業講座	3回	36人	県産食材を活用した料理教室等。

- (2) 農業と食にふれあう体験を提供する「気づき体験事業」の実施

	回数	参加人数	内容
稲作体験	2回	52人	田植え
	2回	42人	稲刈り
	2回	29人	脱穀・粃摺り
収穫体験	91回	642人	タマネギ、ジャガイモ、湘南ポモロン、枝豆、ナス、トウモロコシ等の収穫体験
食育体験	15回	126人	収穫物を利用した調理体験等

豊かな「心」を育む〔食文化の継承の推進〕

取組名：ふるさとの生活技術指導士の活動支援

【担当課：農業振興課】

1 目的

ふるさとの生活技術指導士は、農家・農村地域に受け継がれてきた食文化などの生活技術を持ち、伝承している者を「ふるさとの生活技術指導士」として認定し、生活文化の継承活動をとおして広く県民との交流を促進し、都市農業の振興をはかる事を目的に設置。

2 予算額

70 千円※（農業改良普及活動費）の一部

3 取組予定

(1) ふるさとの生活技術指導士認定事業の実施

4 実施状況

(1) 新たに2名のふるさとの生活技術指導士を認定し、学校や地域での活動を通じて農村文化及び農業理解につなげていく。

	ジャンル	技術内容
認定者①	調理技術	行事食（赤飯）
認定者②	加工技術	野菜加工（株ねぎコロッケ）

取組名：環境保全型農業の推進

【担当課：農業振興課】

1 目的

環境保全型農業推進基本方針に基づき、エコファーマーや環境保全型農業推進運動協定締結団体の増加など環境保全型農業の普及に努め定着化してきているが、一層の推進により新たな実践者の増加や既実践者の取組拡大及び高度化を図る。

2 予算額

4,867 千円

3 取組予定

- (1) 環境に配慮した生産を行うエコファーマーや協定締結団体の認定
- (2) 環境保全型農業の技術研修会の実施

4 実施状況

- (1) 「土づくり」、「化学合成農薬の削減」及び「化学肥料の削減」に取り組むエコファーマー108名、「環境にやさしい農業を進める宣言」をした協定締結団体4団体を認定した。
- (2) 研修会の開催
 - ア 有機農業視察研修会 11月19日(火) 山梨県北杜市 農業者8名参加
 - イ 環境保全農業技術研修会を1月30日(木)に開催予定
内容:有機農業の基本技術と緑肥作物の利用
緑肥作物の品種や効果、管理方法

取組名：畜産交流の実施と地元畜産物の知名度向上

【担当課：畜産課】

1 目的

畜産及び県産畜産物に対する県民の理解促進を図る。

2 予算額

1,296 千円

3 取組内容

- (1) かながわトントンまつりの開催
- (2) かながわ畜産フードコレクションの開催
- (3) かながわミルクフェスティバルの開催

4 実施状況

(1) かながわトントンまつりの開催

県民に養豚や豚肉のことをもっと知っていただくために、生産者、団体、行政等の関係機関が一体となってイベントを開催する。

○日時 令和元年11月10日（日）

○場所 湘南台公園・湘南台公民館

○来場者数 約6,800人

○主催：県養豚協会、県畜産会、県畜産振興会

○内容：県内銘柄豚肉の販売、豚のハガキ絵コンクール、ヨートンクイズ、豚肉の安全に関するPR

(2)、(3) かながわ畜産フードコレクション、かながわミルクフェスティバルの同時開催

○日時 令和元年11月17日（日）

○場所 横浜赤レンガ倉庫前イベント広場

○来場者数 約29,000人

ア かながわ畜産フードコレクション

県産畜産フードを多くの県民に「来て、見て、食べて、知って」もらうことで、県内畜産物の知名度の向上と県産畜産物の消費拡大を図るために、生産者、団体、行政等の関係機関が一体となってイベントを開催する。

○主催：かながわ畜産ブランド推進協議会

○内容：神奈川の畜産フード食べ比べ、家畜の展示、畜産〇×クイズ、豚肉の安全に関するPR

イ かながわミルクフェスティバル

県内の酪農や乳業のことを消費者である県民にもっと知っていただくために、生産者、乳業メーカー、団体、行政等の関係機関が一体となってイベントを開催する。

○主催：かながわ酪農活性化対策委員会、県畜産振興会

○内容：かながわ県産生乳100%認証制度の紹介、乳牛の展示、模擬搾乳体験

取組名：地元水産物の消費促進

【担当課：水産課】

1 目的

水産業及び県産水産物・加工品に対する県民の理解促進を図る。

2 予算額

1,178 千円

3 取組内容

- (1) パンフレット「かながわの魚」による広報
- (2) 手軽に食べられる水産加工品の開発

4 実施状況

- (1) パンフレット「かながわの魚」による広報

神奈川の水産業への理解と地産地消の促進を図るため、県産水産物やそれらを使った料理方法等を紹介するパンフレットを作成し、関係施設やイベント等での配布を行っています。

令和元年度は、漁協や市場、小売店などで開催されたイベントのほか、食育フェスタ、ラグビーファンゾーン、MEBYO サミットなどで配布しました。

また、より多くの方へ県産水産物の情報を発信するため、パンフレットの内容を落とし込んだA4判のチラシを作成しました。

- (2) 手軽に食べられる水産加工品の開発

近年は、低利用魚を用いた製品の開発・商品化に力を入れており、小田原漁港で多く水揚げされる小型カマスを食べ歩きできるようにした加工品「北条一本抜きカマス：通称かます棒」は地元で広く利用されるようになったほか、海老名SAなどでも販売される人気商品となりました。

また、三崎で水揚げされたビンナガの食感と風味を改良した「まぐろコンフィ」は今年度からJALのネット販売（JALUX）で定番商品となり、シリーズ製品として「カジキのコンフィ」や沿岸漁獲の小型サバを用いた「サバのコンフィ」が増えました。これら3種のコンフィは成城石井の一部店舗などでも販売されています。

加えて、小田原市の魚でもあるマアジの流通規格外の小型魚を用いた学校給食用食材として、平成16年に開発・製品化した鰯ハンバーグの一般向けリニューアル商品の販売が開始されました。

新規加工品としては、遠洋マグロ漁業で混獲されるシマガツオ類の西京漬けを製品化したほか、温暖化で増加したアイゴを商品化する際の課題である臭いが残らない処理方法を開発し、刺身素材や漬け魚として製品化を進めています。

ODAWARA LOCAL FISH
小田原の魚ブランド化・消費拡大推進

がんばれ
バイトくん!

山田原名物

骨がないのが、
いいみたい。

棒フライ!
サクサク、じゅわ〜!

カマスの棒とすり身用器具
図解的な「名産一本展開」

小田原前魚

0465-22-9227

小田原の魚 | 刺身

かます棒



おさかなバーグ



サバのコンフィ



カジキのコンフィ

なお、令和元年度は、次のとおり水産加工品の製品化等を進めています。

- ・ 定置網で混獲される小型魚のフライ用素材商品化
- ・ カラスエイの軟骨入りつくね用素材
- ・ 野菜と合わせるディップやソース用の小型魚のエキス化
- ・ マグロ低利用部位の機能性を活かした個食開発

食への理解を深め「神奈川の食」に親しむ〔農林水産物の地産地消の促進〕

取組名：農林水産業についての理解促進

【担当課：環境農政局総務室・農地課】

1 目的

神奈川県都市農業推進条例の基本的施策にある「食と農に対する県民の理解の促進」を推進するため、生産の基盤となる農地及び農業用施設等の有する生産機能や多面的機能の理解促進や、県農林水産業の理解促進を図る。

2 予算額

380 千円（県環境農政局総務室）

※広報誌「わたしたちのくらしと神奈川の農林水産業」の発行

1,826 千円（県農地課）

※里地里山保全等促進事業費については一部

3 取組状況（令和元年 12 月末時点）

(1) 広報誌「わたしたちのくらしと神奈川の農林水産業」の発行

県農林水産業の現状やそれを担う人々の姿を知っていただき、わたしたちのくらしを支えている農林水産業について多くの方に理解を深めていただくため、本冊子を6月（年1回）に発行

(2) かながわ農林水産業出前講座の実施

県農林水産業の魅力や課題について県民の皆様に理解を深めていただくため、県農林水産業の現状や農林水産業の活性化に向けた取組などについて、県職員が県民の皆様のもとへ出向いて講座を実施（実施回数：15回、参加者延べ人数：684名）

(3) 農業や農地の有する多面的機能の理解促進に向けたパンフレットによる広報

第12回かながわ食育フェスタ及び農業農村理解促進イベント等において、農業の有する多面的機能への理解の促進に向けた広報を随時実施

(4) 子ども里地里山体験学校の開催

取組名称 子ども里地里山体験学校 2019

開催日 令和元年7月27日(土)、10月26日(土) ※全2日間

開催場所 厚木市七沢

参加人数 延べ32組69名

取組内容 (1日目) 田の草取り、生きもの調査、里地里山散策、カボスの摘果
(2日目) カボスの収穫、木工細工

他、県・市・団体の里地里山保全に係る取組紹介

食への理解を深め「神奈川の食」に親しむ〔食の安全への理解促進〕

取組名：消費生活に関する情報提供

【担当課：消費生活課】

1 目的

情報誌やNHK・FM放送を通じて、消費生活情報を提供する。

2 予算額

286 千円（一部）

3 取組予定

- (1) 消費生活相談情報紙「かながわ消費生活 注意・警戒情報」での普及啓発 2回
- (2) NHK・FM横浜での放送による普及啓発 2回

4 取組状況

- (1) 消費生活相談情報紙「かながわ消費生活 注意・警戒情報」での普及啓発については、1月24日現在で1回「『加熱すれば安心』ではない食中毒～ウエルシュ菌食中毒～」というテーマで掲載した。年度内にはもう1回、食の安全への理解促進をテーマとした掲載を予定している。
- (2) NHK・FMでの放送による普及啓発については、当課割り当ての放送枠減少に伴い、予定を変更してツイッターによる投稿を実施した。1月24日現在で1回、ノロウイルスによる食中毒の注意喚起を旨とする投稿をし、今後もう1回、食育に関するテーマでの投稿を予定している。

食への理解を深め「神奈川の食」に親しむ〔食の安全への理解促進〕

取組名：食品の安全性に関する情報提供

【担当課：生活衛生課】

1 目的

食品の安全性や食品衛生に関する啓発資料の配布により、県民の食品の安全性や食品衛生への理解や意識の向上を図る。

2 予算額

445 千円

3 取組状況

(1) 「かながわの食品衛生 for KIDS」の作成・配布

ア 配布対象

- ・県内の小学校に在籍する全ての小学校6年生

イ 規格、配布部数等

- ・規格 A4版2ページ 多色刷り
- ・作成部数（令和元年度） 89,000部

区分	学校数	配布部数
市町村立小学校	854	84,704
私立小学校	32	1,936
国立小学校	4	257
公立特別支援学校（小学校）	47	643
計	937	87,540

（その他、関係課、関係機関等送付分及び生活衛生課保留分）

ウ 主な内容

- ・食中毒についての発生原因、予防対策等（固定テーマ）

(2) 子供向けホームページ「かながわの食品衛生-キッズページ」の作成
順次拡充予定

食への理解を深め「神奈川の食」に親しむ〔食の安全への理解促進〕

取組名：食品表示法に基づく食品表示に関する情報提供

【担当課：生活衛生課】

1 目的

食品表示に関する啓発資料の配布により、県民の食品の安全性や食品衛生への理解や意識の向上を図る。

2 予算額

281 千円

3 取組状況

- (1) 消費者や食品販売事業者に対する食品表示のリーフレット「食品表示法に基づく食品の表示」の作成、配布
ア 配布部数 3,000 部（予定）
- (2) 食品表示セミナーの開催
（かながわ食の安全・安心基礎講座の一環として実施）
ア 食品表示に関する講義

	開催日	開催場所	参加人数	テーマ
1	R1. 5. 21	二宮町保健センター	20	食品表示と輸入食品の安全性確保について
2	R1. 11. 7	座間市 市民健康センター	24	食品表示を活用し、ワンランクアップの食生活を
3	R2. 2. 4 (予定)	あつぎ市民交流プラザ (予定)		食品表示と食品安全の基礎知識や食品添加物の安全性について（予定）

- (3) 令和元年度神奈川県食品の適正表示推進講習会の実施
ア 開催日時 令和元年 9、10 月に計 4 回開催
イ 受講者数 計 314 名

食への理解を深め「神奈川の食」に親しむ〔食の安全への理解促進〕

取組名：かながわ食の安全・安心基礎講座等の開催

【担当課：生活衛生課】

1 目的

県民を対象とした食の安全・安心に関する講座を開催することにより、県民の食品の安全性や食品衛生への理解や意識の向上を図る。

2 予算額

207千円（かながわ食の安全・安心キャラバンの予算額を含む）

3 取組状況

- (1) 取組名 かながわ食の安全・安心基礎講座、食品表示セミナー及びかながわ食の安全・安心ラボ
- (2) 日時 令和元年5月～令和2年2月 計10回開催
- (3) 場所 県内各地
- (4) 主催等 主催：神奈川県（神奈川県食の安全・安心推進会議）
協力：開催地自治体、食品事業者等
- (5) 来場者数 各回10～200名程度
- (6) 実施事業の概要
 - ア 食の安全・安心に関する講義
 - イ 食品表示に関する講義（再掲）
 - ウ 施設見学
 - エ 学園祭でのブース出展

かながわ食の安全・安心基礎講座

	開催日	開催場所	参加人数	テーマ
1	R1. 6. 21	大磯町保健センター	22	健康食品と食物アレルギーについて
2	R1. 7. 22	南足柄市 保健センター	29	遺伝子組換え食品と食品中の放射性物質検査について
3	R1. 8. 1	雪印メグミルク(株) 海老名工場	27	見て学ぼう！食品工場の安全・安心の取組みについて
4	R1. 11. 27	大和市 文化創造拠点シリウス	29	農薬のことを学ぼうー農薬の適正使用と食品中の残留農薬の検査ー
5	R1. 12. 18	茅ヶ崎市役所	11	輸入食品の安全・安心を守るためー検疫所の業務と事業者の取組みー

食品表示セミナー（再掲）

	開催日	開催場所	参加人数	テーマ
1	R1. 5. 21	二宮町保健センター	20	食品表示と輸入食品の安全性確保について
2	R1. 11. 7	座間市 市民健康センター	24	食品表示を活用し、ワンランクアップの食生活を
3	R2. 2. 4 (予定)	あつぎ市民交流プラザ (予定)		食品表示と食品安全の基礎知識や食品添加物の安全性について（予定）

食の安全・安心ラボ

	開催日	開催場所	参加人数	テーマ
1	R1. 10. 26～ R1. 10. 27	日本大学 生物資源学部	209	楽しく学ぼう！正しい手洗いと食の安全安心のこと
2	R1. 11. 3	鎌倉女子大学 大船キャンパス	170	楽しく学ぼう！正しい手洗いと食の安全安心のこと

食への理解を深め「神奈川の食」に親しむ〔食の安全への理解促進〕

取組名：かながわ食の安全・安心キャラバンの開催

【担当課：生活衛生課】

1 目的

県民を対象とした食の安全・安心に関するリスクコミュニケーションを実施することにより、県民の食品の安全性や食品衛生への理解や意識の向上を図る。

2 予算額

207 千円（かながわ食の安全・安心基礎講座の予算額を含む）

3 取組状況

- (1) 取組名 かながわ食の安全・安心キャラバン
- (2) 日 時 令和元年8月～12月 計3回
- (3) 場 所 県内各地
- (4) 主催等 主 催：神奈川県（神奈川県食の安全・安心推進会議）
協 力：開催地自治体等
- (5) 来場者数 各回15～40名程度
- (6) 実施事業の概要
 - ア 食の安全・安心に関する講義
 - イ 食の安全・安心に関する意見交換

	開催日	開催場所	参加人数	テーマ
1	R1. 8. 8	小田原市生涯学習センター けやき	27	健康食品の正しい利用方法について (講義とグループ討議)
2	R1. 10. 4	えびな市民活動センター ・ビナレッジ	20	家庭で注意したい食中毒とその対策について (講義とグループ討議)
3	R1. 12. 4	綾瀬市保健福祉プラザ	29	正しく知ろう！食品添加物～その役割と安全性～ (講義とグループ討議)

豊かな「心」を育む〔学校等での食育の推進〕

取組名：学校給食における県内産農林水産物の活用促進

【担当課：保健体育課】

1 目的

神奈川県内の学校給食において、県内産の食材の活用を通して、県内農林水産物への理解を深めるとともに、食べものの成り立ちを理解し大切にすることを育むことに繋げ、食育の推進を図る。

2 予算額

1,411 千円（一部）

3 取組予定

- (1) 公立小・中学校等における「かながわ産品学校給食デー」の実施支援
- (2) 広報による「かながわ産品学校給食デー」取組周知

「かながわ産品学校給食デー」
県内産の食材を使用した献立による給食を実施し、あわせて県内産食材を活用した取組を実施する日。

4 取組状況

- (1) 「かながわ産品学校給食デー」県産食材活用情報の発信
「かながわ産品学校給食デー」に熱心に取り組んでいる学校や給食調理場を取材し、県産食材を活用した献立例や食育の取組などを掲載した情報誌「季節のおすすめ かながわ産品」を年3回発行し、関係機関に情報提供することで、「かながわ産品学校給食デー」の取組を促進した。
- (2) 公立小・中学校における「かながわ産品学校給食デー」の推進
県産品をできるだけ多く使用し、県産食材について理解を深める「かながわ産品学校給食デー」を、県内公立小中学校及び特別支援学校に広めるため、県内全市町村に呼びかけている。なお、（公財）神奈川県学校給食会が「かながわ産品学校給食デーヘルプデスク」によるサポートを行っている。

<参考> 「かながわ産品学校給食デー」実施率（平成30年度）

- 1回以上の実施：98.3%
- 3回以上の実施：81.9%

「かながわ産品学校給食デーヘルプデスク」
（公財）神奈川県学校給食会が、給食実施校の学校栄養士や市町村給食担当者からの相談に応じて、県産農水産品及びその加工品の情報を提供し、具体的な入手方法等、実施上のノウハウについてのアドバイスを行う。

ホームページ「かながわ育ちのおいしい給食」

<http://www.kanagawa-kyushoku-helpdesk.jp/>

5 その他の取組

- (1) **取組名：子どもの健康・体力づくりの推進**
 - ・神奈川県健康・体力づくり「子ども☆キラキラプロジェクト」の実施

- (2) **取組名：学校における計画的な食育の指導支援**
 - ・食育担当者会議の開催
 - ・市町村教育委員会学校給食担当者会議の開催
 - ・食に関する指導研修講座の開催

- (3) **取組名：学校給食に係る表彰及び研修等の実施**
 - ・神奈川県学校給食優良学校等の表彰の実施
 - ・新採用学校栄養職員研修講座の実施
 - ・学校栄養職員、栄養教諭（経験者）研修講座の実施
 - ・栄養教諭・学校栄養職員研修講座の実施
 - ・学校給食調理員研修講座の実施
 - ・衛生管理会議の開催
 - ・令和元年度食料産業・6次産業化交付金（地域での食育の推進事業）の実施

豊かな「心」を育む〔学校等での食育の推進〕

取組名：子どもへの食に関する指導等の推進

【担当課：高校教育課、特別支援教育課】

1 目的

県立高等学校、県立中等教育学校及び県立特別支援学校における食に関する指導の推進を図る。

2 予算額

0千円

3 取組予定

(高等学校)

- (1) 高等学校学習指導要領に基づき、各教科・科目、特別活動及び総合的な探究の時間等での食育に関する指導を行う。
- (2) 教育課程説明会等における食育に係る情報提供を行う。

(特別支援学校)

- (1) 食に関する指導の内容全般の充実をはかり、学校間で情報の共有をすることで各校の取組みに活かし、個々の特性に応じた指導の実践の充実を図る。
- (2) 調理学習等で、自立と社会参加という観点と食育を関連付けた指導の充実及び継続を図る。
- (3) 献立表や給食だよりを活用し、継続的に家庭での食育との連携を図る。

4 取組状況

(高等学校)

- (1) 高等学校学習指導要領に基づき、各教科・科目、特別活動及び総合的な探究の時間等での食育に関する指導を行った。また、学校によっては、地域の幼稚園や小中学校と連携し、農作物の栽培から、給食に利用する食育の授業等に取り組んだ。
- (2) 教育課程説明会等における食育に係る情報提供を行った。さらに、教科「家庭」に係る研究・実践活動発表会においては、生徒が食生活に関する取組を発表し、取組事例を広く周知することができた。

(特別支援学校)

- (1) 食に関する指導について、各校の取組みをまとめた冊子を用いて、授業実践や教材作成の情報共有により、個々の特性に応じた指導の実践に活かすことができた。
- (2) 調理学習では、自立と社会参加をねらって、お弁当や夕食の献立等の身近な題材を用いて指導の充実を図った。
- (3) 献立表や給食だよりを活用し、旬の食材や給食のレシピ紹介等を行い、家庭での食育の啓発を図った。

健康な「体」をつくる〔家庭での食育の推進〕

取組名：子どもの生活習慣改善の支援

【担当課：生涯学習課】

1 目的

県内（政令市を除く）の新中学1年生の保護者に向け、家庭における基本的な生活習慣等について啓発し、子どもの生活習慣改善の支援を行う。

2 予算額

762 千円

3 取組予定

家庭教育ハンドブック「すこやか」の配付による啓発

4 取組状況

- ・ 県内の新中学1年生の保護者等（政令市立の学校を除く）に「家庭教育ハンドブックすこやか」を配付し、食生活や睡眠を含む基本的な生活習慣について啓発した。

取組名：社会教育関係団体を通じた情報提供

【担当課：生涯学習課】

1 目的

P T Aの理解とその活動を推進するための冊子「P T A活動のためのハンドブック」を活用し、会議や研修会などを通して、食育の推進を図る。

2 予算額

0 千円

3 取組予定

「P T A活動のためのハンドブック」及び周知のためのポスターの配付

4 取組状況

- ・ 昨年度作成した「P T A活動のためのハンドブック」及び周知のためのポスターを各市町村P T A所管課等に配付するとともに、各単位P T Aに周知のためのポスターを配付した。

豊かな「心」を育む〔学校等での食育の推進〕

取組名：幼稚園・保育所等における食育支援

【担当課：次世代育成課】

1 目的

児童福祉施設の給食関係者が給食に関する正しい知識と技術を習得し、施設給食のあり方について認識を深め、給食内容の改善を図ることを目的とする。

2 予算額

0千円

3 取組予定

- ・ 保育所保育指針に基づき、食育の推進、保育所の特性を生かした食育。
- ・ 私設保育施設等を対象とした相談、アドバイスの実施

4 取組状況

- ・ 各保育所で食育の計画、実践、評価。
栄養士が配置されている場合は、専門性を十分に発揮し、実践に関わった内容。
- ・ 私設保育施設等にアドバイザー（栄養士）を派遣。
個別の相談に対応、アドバイスを実施する。

健康な「体」をつくる〔食育推進運動の展開〕

取組名：子どもの居場所づくりと連携した共食の推進

【担当課：子ども支援課】

1 目的

食事の提供を含めた子どもの居場所づくりなどと連携し、「共食」の普及啓発を図る。

2 予算額

1,200 千円

3 取組予定

かながわ子どものみらい応援団により、食事の提供を含めた子どもの居場所づくり活動の周知を図る。

4 取組状況

かながわ子どものみらい応援団ホームページにより、子どもの居場所づくり活動を実施する団体を紹介している。

豊かな「心」を育む〔学校等での食育の推進〕

取組名：子どもへの食に関する指導等の推進

【担当課：私学振興課】

- 1 目的
学校における食育の推進
- 2 予算額
0千円
- 3 取組予定
私立学校への食育に関する情報提供
- 4 取組状況
私立学校へ情報提供等を行った

健康な「体」をつくる〔地域での食育の推進〕

取組名：栄養サポートステーションの展開

【担当課：神奈川県立保健福祉大学】

1 目的

学内や大学近隣の自治体等への展開を通じて、県民の食習慣の改善を図る。なお、この取組は、平成30年度をもって県の受託事業としては終了し、令和元年度は大学独自の事業として実施

2 予算額

一千円

3 取組予定

学内や大学近隣の自治体の出張展開により栄養診断や栄養指導を実施する。

4 取組状況

学内や、地元自治体保健所、神奈川県主催の「かながわパラスポーツフェスタ」等へ「栄養サポートステーション」を展開している。令和元年12月31日現在で、出展回数は10回であり、およそ200人が栄養診断や栄養指導を受けた。

健康な「体」をつくる〔食育推進運動の展開〕

取組名：減塩・バランスアップメニューの普及

【担当課：神奈川県立保健福祉大学】

1 目的

食育推進運動の一環として、大学食堂や県内小売店における食育の普及

2 予算額

0 千円

3 取組予定

神奈川・食育をすすめる会と協働し開発したバランスアップメニューの普及

4 取組状況

1 シーズンに2種、年間8種のメニューを提案し、バランスアップメニューとして各回6,300枚を大学食堂のほか、富士スーパー、ユーコープ、相鉄ローゼンの店舗で無料配布した。

健康な「体」をつくる〔若い世代に向けた取組〕

取組名：学生食堂における健康メニューの提供

【担当課：神奈川県立保健福祉大学】

1 目的

食育の啓発の一環として、学生等が利用する食堂において実施

2 予算額

0 千円

3 取組予定

県立保健福祉大学の食育サークル「シーラボ☆」が開発した健康メニューを、学生食堂において提供

4 取組状況

県立保健福祉大学学生食堂において、月替わりで「シーラボ☆ランチ」を提供しており、学生・教職員・地域住民が月に 300 食程度利用している。

